

ヤマザクラの育て方

育てやすさ：★★★★☆ やや手間がかかります

日当たり：日向

花が咲くまでの年数：3～4年

株を健全に育てるには

水はけと日あたりがよい場所を好む

苗木のうちは株もとにワラを敷くなどして霜を防ぐ

必要がなければむやみに枝を切らない

害虫防除のため定期的な薬剤散布が必要

植え替えの適期 12～2月

用土 赤玉土（中粒）：川砂：腐葉土=5：3：2

※園芸用培養土で代用も可能です。

庭植えの場合

庭植えで大木になって困る場合は、木の大きさをコントロールするため、布ポットで根が張るスペースを抑制するとよいです。

①幅・深さとも根鉢の1.5倍ほどの大きさの穴を掘ります。

②布ポットの場合は側面に切れ目をいれ、そのまま植えます。ポリポットやプラスチック鉢の場合は根鉢を抜き、根を軽くくずします。

③木の根元が地表より数cm高くなるように穴の底に用土を入れ、穴に水を入れながら根となじむように、すき間を用土で埋めます。水を与えると株が沈むので、最初は高めに植えます。

④株もとの用土を手で押しかためます。

※水はけが悪い場所では植穴の底に5cmほど砂利を敷いてから植えます。

鉢植えの場合

鉢の底から根が伸び出てきたら鉢の中が根でいっぱいになっているので、一回り大きな鉢に植え替えます。

①根鉢より1回り大きい鉢を用意します。

②布ポットの場合は側面に切れ目をいれ、そのまま植えます。ポリポットやプラスチック鉢の場合は根鉢を抜き、根を軽くくずします。

③鉢に用土を入れ、株を据えたら、水を入れながら根となじむように、すき間を用土で埋めます。

④株もとの用土を手で押しかためます。

水やり 庭植えの場合は土がひどく乾かないかぎり必要ありません。鉢植えは土の表面が乾いたらたっぷりと与えます。

肥料 冬に油かす・完熟堆肥・腐葉土などの有機肥料を寒肥として株のまわりに施します。追肥は春の開花後

と秋に緩効性化成肥料（N・P・K=8-8-8 など）を施します。

剪定 12～2月の落葉期に日当たりや風通しを妨げる混みあった枝や枯れた枝を付け根から切り落とす「枝抜き」が剪定の基本です。太い枝を切ると切り口から雑菌が入って枯れることもあるため、剪定ばさみで斬れる太さ（径1.5cmほど）の枝までにとどめます。切り口には癒合剤を塗ります。

※必要がなければむやみに枝を切らないほうがよいです。

病害虫

害虫が多いため、定期的な薬剤散布が必要です。

葉を食べるケムシ（アメリカシロヒトリ、モンクロシャチホコなど）

症状：葉が食べられ、生育が悪くなったり、美観が損ねられます。

対処：卵や幼虫を捕殺します。スミチオン乳剤などを散布します。

カイガラムシ

症状：美観を損ねたり、すす病を誘発したりします。

対処：歯ブラシでこすり落とします。スミチオン乳剤などを散布します。

コスカシバ

症状：樹皮の下に潜り込んで内部を食害するため、生育が悪くなったり、枯れたりします。

対処：コスカシバがいる所は樹皮が浮いたようになるので、樹皮の上から木づち等でたたいて退治します。

※薬剤散布に際しては必ず商品の説明をよく読み、記載内容に従って正しく安全に使用してください。